

令和2年度
文化事業に関する評価報告書

令和4年1月

尼崎市

I 評価について

1. 趣旨

文化芸術基本法では「地方公共団体は、基本理念にのっとり、文化芸術に関し、国との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。」と定められています。

こうしたなか、尼崎市では本市の最上位計画にあたる「尼崎市総合計画」の部門計画として策定した尼崎市文化ビジョン（以下「ビジョン」という。）において「本ビジョン推進にあたり市は責任を持って文化芸術振興の役割を担う。」「文化の担い手である市民が主体的に活動を展開していくため、市は情報提供・相談などのサポートを行う。」と定められており、本市における文化の位置付けや責務を明確に示しております。

このビジョンを着実に推進するためには、文化事業の進行状況を管理し、必要に応じて改善していくことが重要です。そこで、行政評価と行政運営を連動し、文化施策・事業のPDCAサイクルを運用していくため、本市が実施する文化事業の評価を行います。

2. 評価の対象等

ビジョンでは文化を広義に捉えていますが、実効性のある取組を示すため、芸術分野を中心とした狭義の文化を主に対象とし、次の項目に全て該当する事業を評価対象事業とします。

- (1) 市の予算により実施されている事業
- (2) 継続性のある事業
- (3) 狭義の文化（文化芸術基本法第8条から第14条までの項目（出版物、レコードを除く））（下表のとおり）に関連する事業

芸術	文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊
メディア芸術	映画、漫画、アニメーション、コンピュータその他の電子機器等を利用した芸術
伝統芸能	雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊その他の我が国古来の伝統的な芸能
芸能	講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱その他の芸能
生活文化	茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化
国民娯楽	囲碁、将棋その他の国民的娯楽
文化財等	有形及び無形の文化財並びにその保存、修復、防災対策、公開等への支援
地域における文化芸術	各地域における文化芸術の公演、展示、芸術祭等への支援、地域固有の伝統芸能及び民俗芸能（地域の人々によって行われる民俗的な芸能をいう。）

なお、公益財団法人尼崎市文化振興財団（以下、「文化振興財団」という。）はビジョン推進の中核と位置付けているため、市の補助金により実施している事業について評価を行います。

3. 評価の方法

文化の効果を評価するにあたっては、定量的な評価や単年度ごとの指標による判断に留まることのないよう、次の2つの異なる手法により、本市の文化事業がビジョンの取組の柱に沿った内容になっているか定量的視点と定性的視点からあわせて評価を行います。

○本市の取組の柱

- (1) 若い人の夢とチャレンジを応援する
- (2) 育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる
- (3) 市民の芸術体験を支える

① 現地視察を踏まえた評価

ビジョンの取組の3つ柱について、毎年度、それぞれ1事業ずつ選出した3事業を対象として、文化・芸術に造詣の深い専門家等（以下「専門家」という。）による現地視察での意見を踏まえた評価を行います。

② 個別事業に係る評価

対象の全ての事業について、達成年度の目標値及びビジョンの取組の柱に沿った事業展開を実施できたかという2つの項目を組み合わせる個別事業を評価します。

評価	目標値に対する評価 (定量評価)	取組の柱に沿った事業展開 (定性評価)
A	目標以上の達成ができた。 (100%より大きい)	実施できた。
B	概ね達成できた。 (80%以上100%)	実施できた。
C	概ね達成できた。 (80%以上100%)	実施できなかった。
	達成できていない。 (80%未満)	実施できた。
D	達成できていない。 (80%未満)	実施できなかった。

II 令和2年度事業評価（現地視察を踏まえた評価）


取組の柱1. 若い人の夢とチャレンジを応援する

将来を担っていく若い人の夢を後押しし、飛躍のきっかけとなる機会を提供することで、尼崎が夢とチャレンジを応援するまちであるというメッセージを発信し、そのメッセージが届くことで、新しいもの・ことにチャレンジする人が集まってきます。ビジョンでは取組の柱の最上位に位置づけ、この取組を推進していくこととしております。

【近松賞】第7回近松賞受賞「馬留徳三郎の一日」

近松門左衛門の功績を顕彰するとともに新たな演劇作品の発掘、次代の演劇界を担う優れた劇作家の育成を目的とします。戯曲を公募し、大賞を決定。大賞作品については上演を実施します。

第7回近松賞受賞「馬留徳三郎の一日」は令和元年度上演予定でしたが、コロナウイルス感染予防対策のため延期となり、令和2年度秋季に上演しました。

	目的	近松門左衛門の功績を顕彰するとともに新たな演劇作品の発掘、次代の演劇界を担う優れた劇作家の育成を目的とする。
	実施内容	戯曲を公募・選考し、大賞作品を決定。大賞作品については上演を実施。
	実施期間	公募は4年に1回
	目標	1,500人
	実績	586人
	効果	全国に公募することによって本市の名前を全国に発信できる。また次代の優れた劇作家の育成を目的とし、本市が若手のチャレンジを応援している姿勢をPRできる。

【評価・今後の課題】

専門家による現地視察では、戯曲の内容として、独創性があり、満足度が非常に高いという評価を得られました。

脚本家、演出家を目指す世代にはモチベーションが上がる賞であり、アーティストの育成支援につながったと考えられます。

しかし、今回はコロナ禍で尼崎公演が二度延期になったこともあり、公演の決定がぎりぎりになったため公演の告知が行き届いておらず、尼崎市が主催しているということがあまり外向けに発信できていませんでした。今後は尼崎市の名前をもっと発信できるよう周知PRに工夫が必要だと考えます。

取組の柱 2. 育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる

本市には長い歴史とともに育まれてきた歴史資源や長年継承されてきた伝統芸能や祭りが残っています。これらについて学び・楽しみながら、それが守り伝え活かされていくよう、歴史資源等に関連した事業を実施し、歴史・伝統・文化を継承し、発展させていきます。

【歴史博物館開館記念事業】


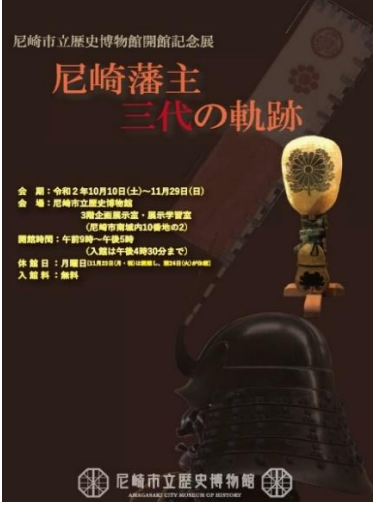
三十数年前からの構想が実を結び、ようやく尼崎市立歴史博物館の開館に至ることができました。

当博物館は

- ・ボランティアや市民団体等が活動に参画する市民と共にあゆむ博物館
- ・子どもたちの初めての博物館体験を大切にした学校教育との積極的連携
- ・体験・交流型の活動や市民の歴史研究の場としてレファレンスを重視

を運営方針としており、地域や市民と密着した歴史博物館として発信していきます。

開館記念事業として当博物館の前身・旧城内中学校出身の尼子騷兵衛氏と大阪城天守閣館長の北川央氏による対談イベントと開館記念展「尼崎藩主 三代の軌跡」を開催しました。

	<table border="1"> <tr> <td>目的</td> <td>尼崎市立歴史博物館開館記念として博物館の周知 PR を図ります。</td> </tr> <tr> <td>実施内容</td> <td>博物館の前身・旧城内中学校出身の漫画家・尼子騷兵衛氏と大阪城天守閣館長・北川央氏による対談イベント。 開館記念展「尼崎藩主三代の軌跡」</td> </tr> <tr> <td>実施期間</td> <td>令和2年10月10日</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>10,000人（展示観覧者数）</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>11,250人</td> </tr> <tr> <td>効果</td> <td>対談イベントはコロナウイルス感染対策のため人数制限をして開催しましたが、博物館のPRにつながりました。歴史博物館開館記念展「尼崎藩主三代の軌跡」の観覧者数は目標の1万人を超え11,250人の実績となりました。</td> </tr> </table>	目的	尼崎市立歴史博物館開館記念として博物館の周知 PR を図ります。	実施内容	博物館の前身・旧城内中学校出身の漫画家・尼子騷兵衛氏と大阪城天守閣館長・北川央氏による対談イベント。 開館記念展「尼崎藩主三代の軌跡」	実施期間	令和2年10月10日	目標	10,000人（展示観覧者数）	実績	11,250人	効果	対談イベントはコロナウイルス感染対策のため人数制限をして開催しましたが、博物館のPRにつながりました。歴史博物館開館記念展「尼崎藩主三代の軌跡」の観覧者数は目標の1万人を超え11,250人の実績となりました。
目的	尼崎市立歴史博物館開館記念として博物館の周知 PR を図ります。												
実施内容	博物館の前身・旧城内中学校出身の漫画家・尼子騷兵衛氏と大阪城天守閣館長・北川央氏による対談イベント。 開館記念展「尼崎藩主三代の軌跡」												
実施期間	令和2年10月10日												
目標	10,000人（展示観覧者数）												
実績	11,250人												
効果	対談イベントはコロナウイルス感染対策のため人数制限をして開催しましたが、博物館のPRにつながりました。歴史博物館開館記念展「尼崎藩主三代の軌跡」の観覧者数は目標の1万人を超え11,250人の実績となりました。												
													

【評価・今後の課題】

専門家による現地視察では、対談イベント参加者の年齢層が多岐に渡っており幅広い世代に発信できて良かったという評価を得られました。

しかし、一方では、「トークゲストは素晴らしいのだが、豊富な知識を参加者に発揮できなかったのが残念」、「講演のコンセプトが見えにくかったため、簡単な資料を配布しテーマを明記すれば歴史への関心をもっと増えるのではないかと思う」といった意見もありました。

開館記念展に関しては特に意見はありませんでした。

今後は、伝え方に工夫をし、参加者が歴史・伝統・文化に興味を持ち理解しやすい内容の企画をする必要があります。

取組の柱3. 市民の芸術体験を支える

文化のつくり手・担い手が育っていくためには、市民が芸術に触れる機会を増やす必要があるため、芸術を「特別なもの」としてではなく、日々の暮らしの中で、呼吸するように触れ合い、楽しめるような尼崎市を目指すことで、市民のみならず、市外の多くの人たちを惹きつけ、交流を深めていきます。

【おうちでアルカイック】

コロナ禍においても、人々は文化芸術に触れる機会を絶やさぬよう文化振興財団のホームページ上に様々な文化的コンテンツの動画を公開・発信しました。

	目的	コロナ禍においても、人々は文化芸術に触れる機会を絶やさぬよう文化振興財団のホームページ上に様々な文化的コンテンツの動画を公開・発信します。
	実施内容	舞台裏の紹介、文化事業の様態、動画によるワークショップ、白髪一雄作品の紹介、文化教室の紹介など YouTube で配信。
	実施期間	通年
	目標	10,000 回
	実績	8,967 回
	効果	コロナ禍において、新しい生活様式が謳われる中、文化振興財団の事業として文化芸術に触れる機会を創出できました。

【評価・今後の課題】

専門家による現地視察では、動画配信は、コロナ禍において工夫された取組みであり、これまで参加したくても参加できなかった層にも訴求ができ、情報として届いてなかった層へのきっかけづくりとなるコンテンツであるという評価が得られました。

しかし、一方では企画・撮影・編集において内容ごとに格差があった、専門用語のレクチャーや長編動画はダイジェスト版にするなど視聴者を飽きさせずに楽しく知識を得る工夫が必要であるという意見や、文化振興財団事業に興味を持ってもらい参加者を増やしていくため、文化教室の動画などは、概要が書かれたコンテンツをダウンロードできるシステムづくりが必要であるという意見もありました。

また、文化ビジョンの取組の柱に基づいた構成の動画づくりを意識し、アルカイックホール内だけでなく歴史博物館や地域振興センター等地域と連携し、市民や地域団体等を巻き込んだコンテンツづくりも必要であるという意見もありました。

Ⅲ 個別事業の評価

【評価結果】

令和2年度評価対象事業は、コロナウイルス感染予防対策から未実施の事業が多く、令和元年度の31事業に比べ4事業減り27事業が実施できました。

個別評価の詳細については別紙個別評価表のとおりです。

令和2年度の評価ではコロナウイルス感染予防対策により中止した8事業と雨天により中止した1事業については評価せず「－」と表記しています。

またコロナウイルス感染予防対策により開催回数や参加人数など制限を加えて開催した事業については実績指標が極端に低くなりC評価になってしまいますが、そのうち何らかの工夫を凝らして事業を実施したことが確認できる事業についてはC評価をB評価にしています。

所管課の評価結果については、昨年度(※)と比較してB・C評価には大きな変化はありませんがA評価が減り、全体的に下降気味になりました。

実施期間の縮小や入場制限などコロナウイルス感染予防対策を施しながら事業を実施したため、目標指標に対して実績指標が低くなったことが、A評価が減った要因と考えられます。

(令和2年度 個別評価集計)

取組の柱	評 価					実施事業 計	事業 合計
	A	B	C	D	－ (未実施)		
①若い人の夢とチャレンジを応援する	1	5	2	0	1	8	9
②育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	3	2	6	0	6	11	17
③市民の芸術体験を支える	1	5	2	0	2	8	10
合 計	5	12	10	0	9	27	36

※令和元年度個別評価集計 A 9事業、B 13事業、C 9事業、D 0事業

【令和2年度の新たな事業】

令和2年度においては、ビジョンにおける取組の柱「市民の芸術体験を支える」、「若い人の夢とチャレンジを応援する」及び「育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる」取組みとして、新規事業「尼子騒兵衛作品等資料収集・調査・活用事業」において「尼子騒兵衛展」の開催を予定していましたが、コロナウイルス感染予防対策のため令和2年度は中止し、翌年度に見送ることになりました。

「市民の芸術体験を支える」取組みとして、コロナウイルス感染予防対策のため人が密集するコンサートや文化イベント等が中止・延期になる中、人々が衣食住以外に日々の暮らしの中に文化芸術を必要としていることが顕著になり、それらに触れる機会を絶やさぬよう YouTube で動画を配信する「おうちでアルカイック」事業を新たに展開いたしました。コロナ禍の中、外出しなくても自宅で文化芸術に触れる機会を創出できました。

「育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる」取組みとして、三十数年の構想がようやく実を結び尼崎市立歴史博物館の開館に至りました。開館を記念して「歴史博物館開館記念事業」を実施いたしました。

これらの新たな事業は、コロナ禍においても市民の芸術体験を支え、市民とともに歴史・伝統・文化を継承・発展させるという文化ビジョンの趣旨を体現するものであり、今後も引き続き力を入れていく必要があります。

IV 総括評価

【前年度の評価に対する改善の取り組み】

令和元年度に個別評価を行った「大植英次 中学・高校吹奏楽部 公開レッスン&コンサート」「尼崎城薪能」の2つの事業については、次のような改善に取り組みました。

「大植英次 中学・高校吹奏楽部 公開レッスン&コンサート」では、進行に改善が必要ではないか、また広く市民に足を運んでもらうとともに、事業の趣旨をご理解いただきこの取組みを応援していただくために時間配分の見直しや広報・情報発信に工夫が必要であるという評価結果をいただいております。このことについては、コロナウイルス感染予防のため、観客の密を避け、参加者の関係校のみに絞り開催したため、広く広報もできず多くの人に参加してもらえませんでした。が、レッスン&コンサートの様子を一部と二部に分けて YouTube で動画配信し、参加できなかった人にも体験してもらえるよう情報発信の方法を改善しました。

更に多くの生徒に芸術に触れる機会を提供できるよう市内の県立高等学校の生徒も対象とすることを検討して欲しいという評価結果につきましては、令和2年度から県立の高等学校の生徒も対象とし、県立尼崎稲園高等学校と市立尼崎双星高等学校が参加しました。

「尼崎城薪能」については、阪神尼崎駅から利便性の良い場所、かつ新たな観光資源である「尼崎城」を活用し、令和元年度に初めて尼崎城で薪能を開催しました。これまで実施してきた大物川緑地公園内能舞台での「尼崎薪能」（阪神大物駅東南 350m）や富松神社での「富松薪能」（阪急武庫之荘駅北西 1.3 km）などの伝統芸能事業に触れる機会がなかった人々にその機会を創出する取組みであったと高評価でした。尼崎城での開催を希望する声が多いことから、長年親しまれている大物川緑地公園のほか新たに尼崎城も加え、今後は交互に隔年で薪能を実施することにしました。

【今年度の視察事業に対する評価】

令和2年度専門家に視察いただいた3事業は、効果が期待できる一方で、それぞれ改善すべき点もあり、専門家からいただいた意見については来年度以降改善を図っていく必要があります。

『近松賞 第7回近松賞受賞「馬留徳三郎の一日」』

近松賞については、尼崎市の名前を市外向けに発信すること、そして市民向けにも近松賞の存在、演劇に興味を持つような発信を工夫する必要があります。

『歴史博物館開館記念事業』

歴史博物館開館記念事業については、歴史・芸術・文化へ興味を持ち理解が深まるような企画の立案が必要です。

『おうちでアルカイク』

おうちでアルカイクについては、今回コロナ禍によって始めた新たな取組みになりますが、コロナ禍が収束した後も、引き続きコンテンツを見た人が文化に興味を持ち、総合文化センター事業の参加につながるような内容になるよう工夫する必要があります。

【文化事業評価以外のビジョン推進に資する取組】

ビジョンを着実に推進するためには、文化施策・事業のPDCAサイクルを運用するだけでなく、新たな事業に取り組むための財源の確保や、文化事業の所管課や地域が相互に連携・協力し合い事業を実施することができるような仕組みをつくることが重要です。

・文化振興基金の活用

平成30年度に設立した尼崎市文化振興基金は、ふるさと納税や文化団体等から寄附をいただいております。令和2年度は「郷土画家『白髪一雄』発信プロジェクト」及び「大植英次 中学・高校吹奏楽部 公開レッスン&コンサート」の実施に基金を活用しました。令和3年度も引き続き上記の2事業に基金を活用することとしていますが、今後も継続して文化事業を実施できるよう、また市民や事業者の皆さまとともに本市の文化振興に取り組む仕組みを強固なものとするためには、文化振興基金や基金事業について更なる周知が必要であり効果的なPRの実施や、文化的なものを返礼品に設定したふるさと納税プランの検討などが必要であると考えています。

・文化振興財団との連携

文化振興財団は、本市の文化の向上に寄与することを目的に設立され、これまでも専門的な知識とノウハウを活用し、本市から移管を受けた文化振興事業を含め文化芸術の鑑賞、体験する機会の提供などの文化事業を行ってきました。

ビジョンでは、総合文化センターを文化推進の中核と位置付け、多様な主体のネットワークの拠点としての役割を果たすような体制づくりに取り組むとしており、ビジョンで定めた役割を実施していくには、文化振興財団は自発性・創造性を発揮し、特色ある文化芸術活動を積極的に展開するとともに、他の文化芸術団体や教育、福祉、観光等の分野などとも連携・協力しながら、本市文化の振興に貢献することが求められます。

こうしたことから、今後は文化芸術に関する中心的役割や、市民の文化芸術活動への助言や協力、文化芸術活動を担う人材の育成などの文化振興財団の機能を高めていく必要があります。

【今後の改善に向けて（全体を通して）】

令和2年度の所管課による事業評価では、コロナ禍において実施できなかった事業や制限を加えて実施した事業も多く、今後も感染防止対策を徹底した上で文化事業の実施に取り組む必要があります。

コロナ禍という世の中が息苦しい状況であるからこそ、人々の心に潤いを与えるために、そして文化の取り組みを絶やさないためにも、国や民間の助成制度をうまく活用するなど工夫しながら市や文化振興財団は文化事業の展開に積極的に取り組むことが求められます。

また「広報の開拓、周知の方法」など広報についての課題や、「出演者、参加者、実行委員会の高齢化」「若い世代など新たな参加者の獲得」など、事業の長期継続等による参加者等の高齢化・若い世代の取り込みが多く、多くの事業に共通した課題となっています。

新たな参加者を獲得するために重要となるのが広報・情報発信であり、若い世代へはSNSなどの若い世代が触れるメディアを活用していくことで効果的なアプローチが見込まれますが、発信した情報に興味を持ってもらえるよう、その内容も十分に検討する必要があります。

また情報発信だけではなく、文化芸術体験、事業内容についても、新たな参加者の獲得に向けたものとするのが重要です。市内の様々な施設に出向いてワークショップを実施するなどアウトリーチ事業を展開し、創作・ものづくりの楽しさを実感する場と機会を提供するなど、多様な人々のニーズに合った事業の企画立案が求められます。

変化する状況の中でもできることに取り組み、文化芸術に触れる機会を提供し、ビジョンを推進していくとともに、今後においてもこの事業評価を活用して、継続的な事業の改善・質の向上に努めていきます。

以 上

令和2年度文化関連事業個別評価表

No.	事業名称	課名	取組の柱	事業概要				経費		評価指標			実績			実施に当たり工夫したこと				所管課評価			アンケート								
				事業開始年度	目的	実施内容	対象世代(誰向け)	実施期間	実施回数(回)	参加人数(人)	R2 事業費(単位:千円)	事業に係る人件費(単位:千円)	指標名	単位	目標	達成年度	H30	R1	R2	財源獲得の努力	広報	協働		改善点等に対する取組	評価	評価の理由	課題	今後の方向性	満足と答えた人の割合		
1	尼子騒兵衛作品等資料収集・調査・活用事業	文化振興担当	市民の芸術体験を支える(※評価はこちらでカント)	令和2年度	市民の芸術体験を支える(※評価はこちらでカント)	尼子騒兵衛氏の作品、資料を整理し、尼子騒兵衛氏のこれまでにの業績を総合的に紹介する全国で初めての「尼子騒兵衛展」の開催することによって全国へ尼崎の魅力・地域資源を発信し、市民にまちの魅力として誇りに感じてもらうランピックの醸成を目的とする	全世代	当초 令和2年10月10日～12月8日開催を予定していた	-	-	-	-	525	6,678	入場者数	人	-	-	-	-	-	-	-	-	実行委員会による運営	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催延期。	-	令和3年度の開催に向けて準備を進める。開催日は令和3年7月17日～9月6日、場所は尼崎市総合文化センター	-		
1	尼崎落研選手権	文化振興担当	若い人の夢とチャレンジを応援する	平成27年度	地域資源である「落語」を本市の魅力として発信するとともに、落語を発表する場を提供して若い人のチャレンジを応援する。	「お笑い」「落語」を市の魅力として発信する大賞対抗の落語大会。	大学生(専門学校、高等、大学院含む)	12月5日	1	59	494	-	出場校数	校	14	R4	11	11	5	-	-	-	-	-	-	新型コロナウイルスの影響を受けて入場者数を制限したため入場できなかった人のためにYouTubeで発信した。実績指標は目標指標にはばなれなかったが、近隣の大学だけでなく関東など遠方の大学からの参加が増えた。	出場者も申込み段階では10校あり、観覧者も入場制限の中、定員を超える申し込みがあった。コロナ禍にあって開催の意義があるため、開催を続けていく必要がある。	状況が落ち着くまでは、入場制限等の対応等を行いつつ大会自体が文化の重要な要素でもあるので、状況を見ながら必要に応じて対応していく。	87%		
2	あまらふアートラボ運営事業	文化振興担当	若い人の夢とチャレンジを応援する	平成27年度	若手アーティストの発表、創作の場として活用することで、若い人の夢やチャレンジを通して、子どもたちを始めとする市民が芸術に気軽に触れること。	若手アーティストによる展覧会やワークショップ、トークイベントを開催する。	全世代	通年	展覧会5回、オンラインWS11回、トーク3回、イベント30回	11,567	20,876	-	入場者数	人	3,300	R4	2,780	2,666	3,556	-	-	-	-	-	-	新型コロナウイルスにより一時的に減少したため、オンラインでのワークショップ等の開催を積極的に行っている。	引続き展覧会を開催し続けることにも、イベントについてはその場の状況を見ながら実施形態を検討していく。	動画配信等の場所に関われない文化体験の機会はないが、それと同時に、身体的な体験が文化の重要な要素でもあるので、状況を見ながら必要に応じて対応していく。	80%		
3	ティーンズサポートチケットPR事業	文化振興担当	若い人の夢とチャレンジを応援する	平成28年度	尼崎市総合文化センターとヒッコリシアターで開催される舞台公演などを10代の皆さんに安価に提供し、本物の音楽や舞台などの芸術に触れる機会をつくる。	1公演ごとに10席限定で500円のチケット販売を行う事業をPRする。	13～19歳	通常は上半期と下半期に実施	4	23	73	-	応募者数	人	200	R4	67	107	25	-	-	-	-	-	-	-	コロナの状況により、上半期の実施が中止となった。下半期に関しては、対象公演の確保が難しい中、可能な限り実施している。	公演自体の中止、座席数の減少等、対象公演の中止による影響が大きい。	上半期が中止となり、下半期は公演数が少ないながらも何とか実施することができた。劇場等での文化体験が減っている中、可能な限り若い人たちに機会を提供していく。	-	
4	文化未来奨励賞	文化振興担当	若い人の夢とチャレンジを応援する	平成30年度	芸術性の高い優秀な作品などを創作し、全国規模の活動を展開しようとしている若手芸術家を公募し、顕彰するとともに、市内で発表する機会を提供するよう支援を行います。	芸術性の高い優秀な作品などを創作し、全国規模の活動を展開しようとしている若手芸術家を公募し、顕彰するとともに、市内で発表する機会を提供するよう支援を行います。	40歳以下	(募集期間)7月13日～8月31日(表彰式)12月2日	1回	9	1,117	-	応募者数	人	25	R4	19	14	9	-	-	-	-	-	-	-	応募者が少ない分野に対して積極的な対応を目標とする。	応募者数の減少はコロナの影響に直接関係がないので評価とする。	より多く応募したければよいので、広くチャレンジを応援していく。	応募者数の増加を目指すとともに、応募者数の質を高めるための指標も検討していく。	-
5	公開レッスン・コンサート	文化振興担当	若い人の夢とチャレンジを応援する	平成30年度 ※平成29年度は共催	市立中学校・高等学校の生徒が世界的指揮者である大塚氏の指導を受け、若い人の芸術体験を支える、若い人の夢とチャレンジを応援する	市立中学校・高等学校の生徒が世界的指揮者である大塚氏の指導を受ける。公開レッスン&コンサート、一般の方も鑑賞できる。	中・高生	11月1日	年1回	364	1,000	-	入場者数	人	1,300	R4	1,100	1,300	364	-	-	-	-	-	-	-	昨年度に目標としていた県立高校の参加誘致ができてきた。新型コロナウイルス感染予防対策のため、入場者を限定したため入場者数が目標を達成できなかったが、市内の県立高校の吹奏楽部など参加できなかった人も見逃がれずにいた。	コロナウイルス感染症拡大に伴い、制限を設けて開催準備を進めたが、本番直前の出演者数増加、来賓、招待、関係者に対する目標を達成できなかった人も見逃がれずにいた。	次回開催時には事前の実行委員会での情報共有、調整、意思確認などを明確に修正し、スムーズに開催できればと考えている。	-	
6	郷土画家「白壁一雄」発信プロジェクト	文化振興担当	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成31年度	本市の出身でフット・ベインティングにより世界的にも著名な抽象画家「白壁一雄」の遺作や作品を本市の誇るべき地域資源としてその魅力を市民、国内外の人にPRする。	市が所蔵してきた作品や資料等を活用し、全国の主要な美術館での展示を働きかけていく。令和2年度は高松市美術館で開催した他、ニューモークのギャラリーによるオンライン展覧会に本市から2作品を展示した。	全世代	高松市美術館開催期間 7月23日～9月6日	年1回	2,786	1,415	1,788	来館者数(3ヶ年合計)	人	18,000(3ヶ年)	R3	-	31,142	2,786	-	-	-	-	-	-	-	令和2年度は「箇所」でしか開催できなかったものの令和元年度と2年度の2ヶ年で来館者33,928人もおり3ヶ年で18,000人の目標値は達成できているため概ね達成としB評価。	コロナウイルス感染症状況により全国の美術館で展覧会のスケジュール調整が難しくなっており、白壁作品を展示できる美術館が開催される見込みが低くなっている。	全国各地で年2回程度5年間に渡り計10館の美術館で展覧会を行えるよう、全国の美術館と調整を図っていく。	-	

令和2年度文化関連事業個別評価表

No.	事業名称	課名	取組の柱	事業概要					経費		評価指標			実績			実施に当たり工夫したこと				所管課評価			アンケート				
				事業開始年度	目的	実施内容	対象世代(誰向け)	実施期間	実施回数	参加人数(人)	R2 事業費 (単位:千円)	事業に係る 人件費 (単位:千円)	指標名	単位	目標	達成年度	H30	R1	R2	財源獲得 の努力	広報	協働	改善点等に対する 取組		評価	評価の理由	課題	今後の方向性
7	白髪一雄記念室	文化特命担当(総文補助)	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成25年度	尼崎市出身であり世界的に評価された抽象画家・白髪一雄の作品を展示し、功績を紹介する。	①第15回展示「没後5年 白髪富士子 前衛美術家としての足跡」 ②第16回展示「寄贈・寄託作品選 1」	全世代	①6月6日～9月13日 ②10月10日～3月21日	年2回	①754 ②1,161	6,574	-	入場者数	人	3,468	R4	3,708	3,574	1,915	-	・市報 ・財団HP ・新聞折込 ・チラシ	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休室した期間に、財団WEBサイトにてバーチャル展示室を公開し、休室中も展示を楽しんでいた工夫をした。	B	臨時休室したため、入場者数は減少したが、多くの人が楽しんでもらえるようWeb展示して工夫した。白髪一雄の作品だけでなく、若き日の数年間に前衛美術家として活躍された、白髪一雄の妻・富士子の没後5年にある節目として遺族の所蔵作品・資料を借用して実施した。後期展示では白髪が年賀状の原画として毎年1点ずつ描いた小品シリーズを展示し、鑑賞者の気楽に入り作品の鑑賞を促し、人気作品のポストカードを作成することにした。	積極的な記念室のPRを心掛け、郷土ゆかりの画家と積極的に活用し、リピーターの確保に努めます。	引き続き、ホームページをはじめとした広報活動を積極的に活用し、リピーターの確保に努めます。	-
8	美術展事業(補助対象の自主事業)	文化特命担当(総文補助)	市民の芸術体験を支える	昭和49年度	優れた芸術を紹介することにより、市民の芸術文化に対する意識を高め、生活に潤いをもたらす。	郷土作家の作品や優れた作家の作品を紹介する展覧会を開催する。 ①「歴史を教へ命を伝える 福本潤子一息と白村上由幸・記憶の色」 ②「ハレ・エ・リュスと美術家たち」	全世代	①8月8日～8月30日 ②11月21日～12月13日	年2回	①947 ②1,101	11,474	-	入場者数	人	4,644	R4	4,077	3,060	2,048	-	・市報 ・財団HP ・新聞折込 ・チラシ等 ・情報誌、タウン誌掲載 ・インターネット媒体掲載	-	①美術品を取り扱う財団と、市立文化財収蔵庫が共同企画したことで、内容を深め、両方のファンに魅力ある展示にできた。 ②あまじんアルカイクホールで実施されているハレエ公演に関連付けた展示を実施した。	C	コロナ禍のため入場者は少なかったが、①国内外で高い評価を受ける藍染作家・福本潤子氏の作品と尼崎の特産物を染料として表現に取り入れている村上市幸氏の作品を通して、繪を中心としたキヌスタイル作品の魅力を紹介するとともに市立文化財収蔵庫より、尼崎における絆と伝統の歴史を伝えることができた。 ②あまじんアルカイクホールで実施されているハレエ公演に関連付けた展示を実施した。	効果的なPR方法、広報媒体の活用	本市ゆかりの芸術家の紹介と、市民に良質な美術を紹介することを目的とした魅力ある企画展の開催を努める。	-
9	市展	文化特命担当(総文補助)	市民の芸術体験を支える	平成23年度	日頃より芸術文化に関心を持っている市民に成果発表の機会を提供し、市民の創作意欲の向上と芸術文化に対する意識の高揚を図る。	洋画、日本画、彫塑・立体・工芸、写真、書の作品を一般公募し、入選・入賞作品を一般公開する。	全世代	10月10～18日	年1回	(参加)263 (入場者)1,583	4,396	-	参加者数、入場者数	人	(参加)265 (入場者)1,721	R4	(参加)247 (入場者)1,583	(参加)252 (入場者)1,497	(参加)263 (入場者)1,583	-	・市報 ・財団HP ・チラシ	-	29歳以下を対象とした「新人賞」を新設し、若者の参加を促すきっかけづくりとした。	B	「新人賞」の新設をPRするため学校関係へのPRを拡大し、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で他市で市展の中止が目立つこともあり、若干ではあるが参加者は増えた。	若者層が積極的に参加し、やすい事業にしている。	実施時期を変更し、参加条件に影響するか等、リサーチしている。	-
10	ふれあいギャラリー	文化特命担当(総文補助)	市民の芸術体験を支える	平成10年度ごろ	市内で地域に根ざした活発な創作活動を展開している文化団体に対し、発表の場を提供し、市民文化の振興を図る。	市内で創作活動している団体が、順次、グループ発表会を開催する。	全世代	(前期)10月9日～11月23日 (後期)2月19日～3月29日	年2回(11)	1,349	2,047	-	参加団体数	クール(週)	14	R4	16	13	11	-	・市報 ・財団HP ・チラシ	-	募集要項やチラシを親しみやすいデザインにし、参加しやすしい事業としてPRをした。	B	新型コロナウイルス感染症拡大及び緊急事態宣言の影響で、実施を控える等、参加者が減少したが、参加された団体は積極的に創作活動に取組、発表していた。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、活動団体の減少が予想されるが、参加条件の緩和策を検討し、対応していきたい。	参加条件の緩和策を検討し、対応していきたい。	-
11	文芸祭	文化特命担当(総文補助)	市民の芸術体験を支える	平成21年度から移管	市民の文芸活動への参加を促進するとともに、作品研究会を通して文芸の振興と交流を図る。	広く川柳・短歌・俳句の文芸作品を募集し、優秀な作品は文芸作品集に掲載するとともに、文芸祭大会で、作品の研究会を行う。	全世代	6月1日～7月13日	年1回	1,545	3,626	-	応募作品数	件	1,320	R4	1,320	1,385	1,545	-	・市報 ・財団HP ・リーフレット	-	引き続きWEB応募を実施していること、ステイホーム期間中の参加につながった。	A	ステイホームの影響もあり、Web応募により参加者の増につながった。WEB応募を積極的にPRすること、で、更なる増につなげていく。	若年層、リピーターの積極的な参加と、新規参加者の双方にPRしていく。	応募可能句数(首数)を見直し、増やすことで、参加意欲の向上につなげていく。	-
12	尼崎新能	文化特命担当(総文補助)	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和55年度	能楽を身近でかつ、気軽に鑑賞できる機会を提供することにより、日本の伝統芸能への関心を高揚し、市民文化の振興を図る。	能楽「蘆荊」	全世代	10月1日	年1回	900	3,641	-	参加者数	人	800	R4	900	(雨天中止)	900	協賛金	・市報 ・コミュニティー ・掲示板 ・財団HP ・チラシ、ポスター	地元市民との協力	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当初5月開催予定であったが10月1日に開催を延期し、コロナ対策を万全に行い無事終了した。	A	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当初5月開催予定であったが10月1日に開催を延期し、コロナ対策を万全に行い無事終了した。	コロナ禍での運営の仕方	地元住民の理解と協力体制の確立	-
-	富松新能	文化特命担当(総文補助)	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和55年度(富松は平成8年度から補助)	能楽を身近でかつ、気軽に鑑賞できる機会を提供することにより、日本の伝統芸能への関心を高揚し、市民文化の振興を図る。	-	全世代	開催中止	年1回	-	-	-	入場者数	人	800	R4	500	800	-	協賛金	・市報 ・コミュニティー ・掲示板 ・財団HP ・チラシ、ポスター	地元市民との協力	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止。	-	-	-	-	
-	演劇祭	文化特命担当(総文補助)	若い人の夢とチャレンジを応援する	昭和26年度	演劇団体に発表の場を提供し、一歩に進出することにより相互交流と研鑽を図り、高揚を通じて文化の向上を図る。	尼崎市舞台芸術協会に演劇発表会を実施する。	全世代	開催中止	年1回	-	507	-	出演団体数	団体	8	R4	7	7	-	-	・チラシ ・HP ・市報	各出演団体によるPR	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止。	-	-	-	-	

令和2年度文化関連事業個別評価表

No.	事業名称	課名	取組の柱	事業概要				経費		評価指標			実績			実施に当たり工夫したこと				所管課評価			アンケート					
				事業開始年度	目的	実施内容	対象世代(種向け)	実施期間	実施回数(回)	参加人数(人)	R2事業費(単位:千円)	事業に係る人件費(単位:千円)	指標名	単位	目標	達成年度	H30	R1	R2	財源獲得の努力	広報	協働		改善点等に対する取組	評価	評価の理由	課題	今後の方向性
13	新人お笑い尼崎大賞	文化特命担当(総文補助)	若い人の夢とチャレンジを応援する	平成12年度	尼崎から21世紀に広く全国に羽ばたく芸能人を発掘かつ育成し、そのまちの文化の発展と向上に寄与することを目的とする。	尼崎から21世紀に広く全国に羽ばたく芸能人を発掘かつ育成するため、コンクールを開催する。	全世代	(本選) 令和3年2月6日	年1回	212	2,392	-	エントリナー数(入場者数含む)	組	1,130	R4	483	1,075	353	協賛金の新規獲得	・市報 ・財団HP ・チラシ	-	新型コロナウイルス感染症拡大により、協賛金の獲得が難しくなる中、予選会を非公開での映像審査に変更するなど、感染拡大を防ぐとともに経費削減にも努めた。	B	新型コロナウイルス感染症拡大により、協賛金の獲得が難しくなる中、予選会を非公開での映像審査に変更するなど、感染拡大を防ぐとともに経費削減にも努めた。また、感染拡大により予選会への出場エントリー数は大幅に減った。	出場者の新規獲得のため、より一層近隣地域へ向けて、大衆目を狙ったPR発信を重点的に行う方法について検討してまいります。また協賛金についても事業運営に理解を頂ける企業を新たに発掘できるような努力をします。	-	
-	歌舞伎公演	文化特命担当(総文補助)	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和61年度	伝統芸能である人形浄瑠璃、歌舞伎を通じて近松芸術への理解を深める。	歌舞伎公演 ・正札附根元華譜 ・義経千本桜 文案・歌舞伎は1年毎に開催	小学生以上	公演中止	年1回	-	1,450	-	入場者数	人	(文案) 750 (公演費) 1,900	R4	(歌舞伎) 1,734	(文案) -	(歌舞伎) 公演中止	-	・市報 ・財団HP ・掲示版 ・ポスター、チラシの配布 ・新聞広告	-	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため公演中止。	-	-	-	
-	近松祭	文化特命担当(総文補助)	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和11年度	近松門左衛門の功績を顕彰する事を目的として、近松記念館で近松をテーマとする演芸等の行事を行う。	人形浄瑠璃、浪曲、人形劇、落語、語りなど近松門左衛門ゆかりの演芸等上演する。令和2年度は基前祭のみ実施。	全世代	10月25日	年1回	50	1,359	-	参加人数	人	600	R4	500	510	50(奉納式のみ実施)	協賛金	市報・財団HP・掲示版・緊急連絡ポスター・チラシ	地元市民との協力	実行委員会検討 地元協力	-	新型コロナウイルスの影響で市の補助事業である記念行事は中止した。奉納式のみ実施。	大近松祭実行委員会役員の高齢化と300年祭の内容準備	若い方への参加呼びかけと財源確保	-
14	近松ナウ	文化特命担当(総文補助)	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和61年度	市制70周年(1986年)を契機に、「近松のまち・あまがさき」を自指して、多様な文化事業を展開。その一環として「近松を現代に魅了させる」をコンセプトとして実施。	近松の世界を現代に魅了させよう、近松をテーマにした各種の催しをリアルでPRすること、より多くの市民に観賞、ご参加いただけるように努めている。	全世代	令和2年9月～令和3年3月	9事業	56,171	1,387	-	事業本数	事業	21	R4	18	17	9	-	・市報 ・財団HP ・チラシ	民間の協賛団体の確保に努めている	市内外へ向けた近松の情報発信のため、近松門左衛門ゆかりのある地域への全国的なPRを行ったが、新型コロナウイルスの影響で協賛予定団体の事業が中止となり、事業数が減少した。	C	新型コロナウイルスの影響で目標指標としている事業数は目標値に達しなかった。	新型コロナウイルスの影響で事業数が昨年の17事業から、あまがさきPRを強化し、新たに協賛団体を募る。	本事業を通して、「近松のまち・あまがさき」PRを強化し、新たに協賛団体を募る。	-
15	近松賞	文化特命担当(総文補助)	若い人の夢とチャレンジを応援する	平成13年度	近松の功績を顕彰するとともに新たな演劇作品の発掘、次世代の演劇界を担う優れた劇作家の育成を目的に実施する。	戯曲を募集し、審査を通過した作品を対象に選考会を実施して大賞を決定、大賞作品については、準備期間を設けて上演する。令和2年度は第7回近松賞受賞作品の上演。	全世代	10月15日～17日	5回	586	2,374	-	参加者数	人	1,500	R1	-	-	586	文化庁文化芸術振興費助成事業	・あまらぶFB ・プレスリリース ・記者発表 ・チラシ ・ポスター ・Twitter	-	作品の上演にあたり、一部の公演終了後、演出家の平田氏・作者本人の高山氏・近松賞選考委員である若松氏によるパネルトーク(アフターストーク)を実施し、より受賞作品の魅力を来場者へ伝えることができた。	B	コロナ禍の中、延期しながらもなんとか尼崎公演を開催できた。さらに東京公演も開催できた。さらに新型コロナウイルスの影響で尼崎公演は度も延期となり、公演PRの期間が短かったこと、また感染状況が収まらず、審判員定員の50%ということ、思うように集客が伸びなかった。	劇団色が強く、尼崎市主催であることがわかりにくく、「近松賞」事業をより理解・応援いただけるよう、認知度を高める方法について検討してまいります。	次年度はPR・公募の準備期間となるが、市民に対し「近松賞」事業をより理解・応援いただけるよう、認知度を高める方法について検討してまいります。	-
16	アウトリーチ事業	文化特命担当(総文補助)	市民の芸術体験を支える	平成24年度	市内の子どもたちが芸術を前に体験・体感できる場を提供する。美術部門では、身体を使った創作の楽しさを体感する場を提供する。	尼崎市が誇るアクション・ペインター白壁一雄氏の画業を紹介しながら、その独創的な足で絵を描く描法を体験してもらう。	全世代(小学校高学年児童生徒中心)	通年	2箇所2回	25	1,716	-	実施箇所	箇所(学校・園・公共施設等)	6	R4	9箇所(19回)	7箇所(13回)	2箇所2回	助成金獲得	・小学校長会 ・小学校造形教育研究会	-	学校だけでなく市内施設で積極的に実施した。	B	新型コロナウイルス感染症拡大のため、実施回数は減少したが、生涯学習プラザ等幅広いベースを利用し、朝にならないように人数を調整し実施した。	生涯学習プラザなどに活動の場を広げ、市民が参加体験できる機会を増やしていく。	芸術体験の機会を増やしていきたい。	-
17	文化教室事業	尼崎市文化振興財団	市民の芸術体験を支える	昭和49年度	開創以来、市民ニーズに応えるために幅広い各種講座を運営し、学習・創作・実践の場を提供する。	洋舞・邦舞コースをはじめとし、音楽、美術から文字や数独に至る多数の講座を開講している。	全世代	通年	8コース70講座	706	21,212	-	受講者数	人	800	R4	1,118	771	706	-	・市報 ・財団HP ・新聞折込 ・チラシ(館内及び近隣施設)	あまがさき観光局	-	生涯学習プラザや観光案内所など市内の地域を広げて出張講座を実施した。	B	講座の広報として、新聞折込は有効な手段であるがこれに限らず、それぞれの講座内容に合った幅広い層に届く広報が課題である。	常設講座の受講生数は確保しながら、各講と連携して、地域の要望に応える各種講座の展開を図る。	-
18	ホール事業(補助対象の自主事業)	尼崎市文化振興財団	市民の芸術体験を支える	昭和57年度	尼崎市民の文化の向上	オペラ、バレエ、クラシック、お笑いなど、幅広いジャンルの事業を実施。また、子ども向けの事業も行っている。	全世代	通年	13回	3,672	7,554	-	参加人数	人	29,915	R4	17,000	23,979	3,672	助成金獲得	・市報 ・財団HP ・掲示版 ・ポスター、チラシの配布 ・新聞広告 ・団体誌	-	-	新型コロナウイルスの影響で目標指標としている事業数は目標値に達しなかった。	効率的な宣伝媒体の開拓	幅広い年齢層に向けた事業展開を行う。	92%	

令和2年度文化関連事業個別評価表

No. 本欄は一 覧	事業名称	課名	取組の柱	事業概要								経費		評価指標			実績			実施に当たり工夫したこと					所管課評価		アンケート 満足と答えた人の割合								
				事業開始年度	目的	実施内容	対象世代 (種別)	実施期間	実施回数 (回)	参加人数 (人)	R2 事業費 (単位:千 円)	事業に係 る人件費 (単位:千 円)	指標名	単位	目標	達成年度	H30	R1	R2	財源獲得 の努力	広報	協働	改善点等に対する 取組	評価	評価の理由	課題		今後の方向性							
19	おうちでアルカイツク	尼崎市文化振興財団	市民の芸術体験を支える	令和2年度	コロナ禍においても人々が文化芸術に触れる機会を絶やさないよう、文化振興財団のHP上に様々な文化イベントの動画を公開している。	主催する文化事業の模様、動画によるワークショップ、自愛一庭の紹介、文化教室の紹介、施設の紹介などをYouTubeを通して配信した。	全世代	通年	-	-	1,853	-	視聴数	回	10,000	R4	-	-	8,967	・財団HP ・ポスター掲示 ・チラシ等掲載	一部動画は、共催団体や支援を行っている団体の協力を得て制作した。	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、新しい取り組みとして5月から実施した。	-	B	ほぼ全てのコンテンツについて、撮影・編集など全ての行程を財団職員が行った。撮影・公開できないもの、構成・編集が十分でないものなど、今後より充実したものを公開しなければならない。	コンテンツの充実	新しい生活スタイルが求められる中、文化振興財団の事業を発信する手段として、充実させていく。	-	-						
-	あまがさき歴史音楽祭	観光振興課	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成27年度	歴史的建造物に魅れ音楽を通して、市のイメージアップや地域への愛着・誇りをコンセプトの醸成を目指している。	「歴史的建造物で音楽を楽しむ」をテーマに、市内内外のミュージシャンによって繰り広げられる音楽祭。(市と実行委員会の共催)	全世代	開催中止	年1回	-	-	-	来場者数	人	500	R1	1,800	600	(開催中止)	企業寄付金 ・市報 ・市HP ・FB ・チラシ	実行委員会による運営	-	-	-	C	新型コロナウイルス感染拡大防止のため公演中止。	-	-	-						
20	少年音楽隊事業	子ども青年課	若い人の夢とチャレンジを応援する	昭和37年度	豊かな情操と健全な心を持つ子どもを育成するとともに、本市の音楽文化の向上に寄与する。	合唱隊、吹奏楽隊、バトン隊、ドラムベント隊、ドラム隊の5隊で編成し、定期演奏会の実施の他、地域のイベントにも多数出演している。	青少年(小学生5-6年生等)	通年	-	245人 (R2隊員数)	3,824	11,933	隊員数	人	270	R3	240	257	245	楽器の寄付を毎年受けており、公費による楽器購入は行っていない。 ・市報 ・市HP ・チラシ(市内小学校、公共施設等) ・ポスター ・小学校校長会	-	-	-	B	令和2年度末の隊員数は245人を数え、目標水準に概ね到達している。(達成率90.7%) 少年音楽隊の日々の活動を通じて、青少年の健全育成が図られるとともに、隊の認知度も上がり、隊員数の増加にもつながっているものと考えている。	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、少年音楽隊の活動を制限されたが、感染症対策を十分に講じながら良好な練習環境を整え、新型コロナウイルス感染症を懸念に隊員数が減少することのないよう活動内容の一層の刷新を図ること。	当該事業は、隊員の保護者や教育委員会との密接な連携が不可欠であり、今後もこうした主体と連携を図りながら事業を推進していく。	-	-						
-	育み・育ちつなぐ音楽のまち尼崎事業	学校教育課	市民の芸術体験を支える	平成28年度	児童生徒による多彩な音楽活動を通して、子ども達を育み、大人も育ち、市民にとって、愛着と誇りを持つまちや来客につながるまちづくりを推進する。	あましんアルカイツクホールで小・中・高児童生徒が演奏するコンサートを実施する。	小・中・高等学校の児童・生徒・保護者・一般	開催中止	年1回	-	-	-	入場者数	人	1,082	R1	1,376	1,189	(開催中止)	・市報あまがさき ・あまナビ ・教育総合センターHP ・FMあまがさき ・市政広報ラジオ番組	協働推進員制度と市政広報協力事業所	-	-	-	-	C	新型コロナウイルス感染拡大防止のため公演中止。	-	-	-					
21	田能遺跡サポーター養成事業	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成28年度	「田能遺跡サポーター」養成講座を実施し、その知識をもとにボランティアとして、復元施設の修復及び事業のサポート等を行う。「田能遺跡サポーター」を養成し、協働の取組を推進する。	・田能資料館で実施する古代のくらし体験学習等の実施 ・小学校等団体見学の際のサポーター ・田能遺跡出土遺物の再整理の協力	全世代	通年	随時	79	93	1,897	参加のべ人数	人	300	R4	125	219	79	-	・田能資料館 twitter ・市報 ・市HP、SNS ・ポスター ・チラシ ・地元で依頼しているPR(指示板)	-	-	-	C	新型コロナウイルス感染症防止の観点から、事業を実施できなかった。	ボランティアの意欲的に参加できるような活動内容や有形无形を工夫する。 新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの事業実施	田能資料館が新たに歴史博物館分館として位置付けられたことを機に、令和3年度から田能資料館教育普及事業として再編する。	-	-					
22	特別展・企画展事業	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	特別展:昭和46年度企画展:平成15年度	<特別展>日本文化の源流とも言える弥生文化に焦点をあて、各地域の代表的な出土品を展示し、田能遺跡との関連性について考察する。弥生時代の人々の生活や技術・文化の発展を探り、弥生文化の重要性について認知を図ることにより、弥生文化保護への関心を高める。 <企画展>田能遺跡にみられる弥生時代を調査・展示することにより弥生文化に対する理解を高める。	(特別展)「田能遺跡の弥生人-田能家の人々-」 (企画展)「弥生時代のくらし」	全世代	(特別展)5/21~9/27 (企画展)11/3~12/20	(特別展)1回 (企画展)1回	15,478	714	5,211	観覧者数	人	28,000	R4	23,294	25,261	15,478	-	・田能資料館twitter ・市報 ・市HP、SNS ・ポスター ・チラシ ・地元で依頼しているPR(指示板)	-	-	-	C	緊急事態宣言による閉館50周年記念特別展の会期変更や休館等の影響もあり、観覧者数は目標を下回っており、田能遺跡及び周辺の道から出入した人を含む観覧者数を期に開始したSNSの更新を活用などに取り組んでいる。	田能遺跡の魅力と文化財としての価値の発信に努め、観覧者の増加に努めていく必要がある。これを機に、田能遺跡の調査や展示の準備など、ボランティアの積極的な参加を得た。	田能資料館が開館50周年を機に、令和3年度からは他施設から資料を借り入れて実施する特別展を企画し、改めて田能遺跡での出土遺物を紹介する企画展を年2回開催する。	-	-					
-	古代のくらし体験学習事業	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和46年度	出土遺物の取組・展示による文化財の啓蒙にとどまらず、弥生文化をより身近なものとして理解するため、古代のくらしを体験できる事業を展開する。弥生時代の人々の生活や技術・文化の発展に対する認識を新たにし、市民の歴史学習を支えるとともに、文化財に対する関心を高める。	・勾玉をつくらう(3回) ・石の織をつくってばそう!(1回) ・縄染をつくらう(2日間) ・弥生土器をつくらう(2日間) ・コトカタノウクわくわく体験(2日間) ・西摂弥生遺跡めぐり	全世代	通年	-	-	68	2,423	参加者数	人	300	R4	179	224	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	C	新型コロナウイルス感染症防止の観点から、事業を実施できなかった。	新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの事業実施	田能資料館が新たに歴史博物館分館として位置付けられたことを機に、令和3年度から田能資料館教育普及事業として再編する。	-	-
23	文化財収蔵庫企画展示事業	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成26年度	文化財収蔵庫が所蔵する資料を広く公開することにより、市民や子供たちが本市の歴史や文化財に関心を持つとともに、本市のシティプロモーションにも貢献する。	文化財収蔵庫が所蔵する資料を活用した企画展を、尼崎市総合文化センター美術ホールで開催する。	全世代	8月8日～8月30日	年1回	848	510	1,632	展示観覧者数	人	20,000	R4	5,919	929	848	-	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ ・朝日新聞 ・毎日新聞	-	-	-	C	評価指標は新博物館開館後を想定し高めに設定しており、加えて、文化財収蔵庫が工事中のため総合文化センター美術ホールでの20日間だけの期間となったため、目標に対する達成率は低位に止まっているが、アンケート調査結果は良好で収蔵資料を広く公開するという取組の仕切った事業は実施できているため、今後も引き続き取り組む必要がある。	歴史博物館が開館後、総合文化センター美術ホールでの展覧会は令和2年度で終了し、歴史博物館企画展事業へ転換し、さらに充実した展示活動を実施していく。	歴史博物館開館に伴い、総合文化センター美術ホールでの展覧会は令和2年度で終了し、歴史博物館企画展事業へ転換し、さらに充実した展示活動を実施していく。	100%	-					

令和2年度文化関連事業個別評価表

No.	事業名称	課名	取組の柱	事業概要							経費		評価指標			実績			実施に当たり工夫したこと					所管課評価			アンケート			
				事業開始年度	目的	実施内容	対象世代(種向け)	実施期間	実施回数(回)	参加人数(人)	R2事業費(単位:千円)	事業に係る人件費(単位:千円)	指標名	単位	目標	達成年度	H30	R1	R2	財源獲得の努力	広報	協働	改善点等に対する取組	評価	評価の理由	課題		今後の方向性	満足と答えた人の割合	
1	歴史遺産を活かしたまちの魅力再発見事業	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成26年度	まちづくりの核となる歴史遺産を活かし、市民との協働のまちづくりを展開し、情報発信することで、市民の地域への愛着を醸成し、尼崎の魅力を高める。	富松城跡の保存・活用を市民と協働で進めるとともに、富松城跡の歴史的価値や歴史遺産としての活用方策等を市民と共に考えるためのイベント等を開催する。	全世代	雨天中止	年1回	0	50	1,867	事業参加者数	人	100	R4	69	72	—	—	—	—	—	富松城跡を活かすまちづくり委員会と連携し、その協力も得て実施する予定であった	—	—	本年度は、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、対象者をまちづくり委員会の会員のみとして3月28日に実施予定であったが、当日雨天のため中止となったため。	富松城跡の歴史的・文化的価値を広く市内外に発信に努めるとともに、富松城跡の保存・活用方策の検討を市民とともに進め、地域資源としてまちづくりに活用していく必要がある。	これまでは、富松城跡を広く周知するための単発的的事业を行ってきた。今後は、地域性や学校との連携を更に深め、富松城跡を地域資源として保存・活用していくための取組を進める。	—
24	わくわく体験ミュージアム事業	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成13年度	地域の歴史に関わる各種体験学習活動をはじめとする教育普及事業を、市民との協働で行うことにより、市民や児童生徒が本市の歴史・文化財に関心を持ち、地域に根ざした文化活動の促進に貢献する。	・市民向けの歴史講座の開催 ・学校教育と連携した児童生徒向けの夏のくらし等に関する学習会の開催 ・体験を主とする夏休み学習会の開催 ・学芸員と協働で体験学習活動を行う市民ボランティア養成	全世代	通年	20	973	130	2,332	事業参加者数	人	4,500	R4	3,059	3,057	973	—	・市報 ・市HP	—	—	一部事業は、れきし体験学習ボランティアと協働で実施している	—	C	本年度は、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、実施できた事業が例年に比して極端に少なかったが取組の柱に沿って実施できた。	令和2年度に歴史博物館が開館したので、歴史博物館教育普及事業として新たな展開を構築していく必要がある。	博物館にとっては、展示と並んで重要な事業であり、直接、市民や児童生徒と繋がっている事業でもある。加えて、歴史博物館は教育普及事業を行う施設・設備が充実したことから、本事業はより多彩で、より市民・児童生徒の学習意欲やニーズに応えた内容へと高めしていく。	—
25	歴史資料公開活用事業	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成17年度	教育委員会が行ってきた歴史資料等の収集の成果を市民に還元し、本市が歴史豊かな文化都市であることをPRし、本市のイメージアップに貢献する。	文化財収蔵庫が所蔵する歴史資料・美術工芸資料等を活用した展示会を、尼借会館3階展示室を借用して開催する。	全世代	1月9日～3月28日	年1回	9,630	220	1,166	展示観覧者数	人	1,500	R1	2,390	2,190	9,630	—	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ ・朝日新聞 ・神戸新聞	—	—	—	本年度は、令和2年10月に開館した歴史博物館の第1回企画展として開催し、例年より会期も長かったため。	歴史博物館に企画展を行うことができる展示室が整備されたので、今後は歴史博物館の収蔵資料を広く展示公開できるようにしていく必要がある。	歴史博物館開館に伴い、尼借会館での展示会は令和元年度で終了し、歴史博物館企画展事業へと転換し、さらに充実した展示活動を実施していく。	100%		
26	新博物館開館準備事業	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成31年度	文化財収蔵庫をリニューアルした歴史博物館が令和2年度に開催することから、開館に向けて市民に歴史博物館をPRする。	歴史博物館を市民にPRするため講座やシンポジウムを開催する。	全世代	8月12日	1回	44	215	1,166	事業参加者数	人	500	R1	—	763	44	—	・市報 ・市HP	—	—	—	本年度は、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、実施できた事業が1回だけであったが、取組の柱に沿って実施できたため。	歴史博物館開館に伴い本事業は廃止	歴史博物館開館に伴い本事業は廃止	—		
27	歴史博物館開館記念事業	歴史博物館	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	令和2年度	歴史博物館の開館を記念して歴代の尼崎城主の事績を紹介する展示会等を開催する。	歴史博物館開館記念展を開催する。	全世代	10月10日～11月29日	1回	11,250	5,341	4,664	展示観覧者数	人	10,000	R2	—	—	11,250	—	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ ・神戸新聞	—	—	—	本年度は、令和2年10月に開館した歴史博物館の開館を記念した展示会であり指標以上の観覧者があったため。	令和2年度単年度事業	令和2年度単年度事業	98%		